

大山街道

見どころマップ

赤坂～三軒茶屋	1A 1B	二子玉川～荏田	3A 3B	長津田～鶴間	5A 5B	厚木～愛甲	7A 7B
三軒茶屋～二子玉川	2A 2B	荏田～長津田	4A 4B	鶴間～厚木	6A 6B	愛甲～大山	8A 8B



3. 二子玉川から溝口、荏田まで

赤坂御門を発った大山街道は、渋谷・三軒茶屋・用賀をへて、多摩川の「二子の渡し」(冬は「仮橋」)を渡ります。幕府が江戸攻略を恐れて架設許可をしなかったためです。渡しを渡って少しばかり行くと「溝口・二子宿」に出ます。街道沿いに商店が軒を連ねています。二子名主大貫家や溝口の間屋丸屋など、上方から「下り荷」と共に、伊豆の乾魚、椎茸、駿河の茶、真綿、秦野の煙草が集積され、出荷調整が行われている「物流センター」でした。この他、需要に応じて街道沿いの村々から、炭や薪、生鮮食品や醤油、油等が大山街道を上り、多摩川を下って江戸へ送られました。

一方、「宵越しの金を持たない」今を享樂する江戸の庶民は、三々五々講を作って神仏への信仰のため、大山阿夫利神社の大山講、富士山への富士講、御嶽山への御嶽講、三峯山への三峯講など、江戸庶民の信仰と物見遊山、湯沼の旅が盛んになりました。最盛期は江戸中期～大山詣では宝暦年間(1751-64)で年間 20 万人が参詣しました。「伊勢参り」は年間 100 万人、日本人の 15 人に 1 人の割合で参加したといわれています。大山街道の要所要所に大山灯籠が建ち道標が、白装束の遠来の客を歓迎しました。

大山街道の商店は情報交換の場で、買い物先の火鉢にあたりながら、世間話に花が咲きました。しかしながら、明治 5 年(1893)新橋-横浜間に街道に変わる鉄道が出来ると、急激に大山街道は寂れていきました。

11 八幡神社



旧馬絹村小台の神社、稲荷社と庚申塔がある、石段の一番下が昔の大山街道。

12 宮前平の観音堂跡



13 道標のある馬頭観音



文化2年(1805)11月の銘のあるこの馬頭観音は、かつては上有馬と牛久保の境近くにあった。今は解読困難だが記録によれば左側面に「大山道」、右側面に「王禅寺道」と刻字があった。大山道から分岐して保木の薬師堂を経て王禅寺に至る道標として貴重である。土地改良事業により現在地に移され、傍らにその経過を記す石碑がある。

14 皆川家



大山道荏田宿～溝口宿間の馬の休憩所である立場が置かれていた。